

JINDAI SPORTS

陸上競技部 駅伝チーム 第100回 箱根駅伝 予選会

総合順位：7位 最終総合タイム：10:37:20

順位	氏名(学科・学年)	タイム
13	小林 篤貴(人間科・4年)	01:02:12
32	宇津野 篤(人間科・4年)	01:02:38
49	宮本 陽叶(人間科・2年)	01:03:09
81	佐々木 亮輔(人間科・4年)	01:03:46
120	巻田 理空(人間科・4年)	01:04:05
123	大岩 歩夢(人間科・4年)	01:04:06
141	三原 涼雅(国際日本・1年)	01:04:14
146	酒井 健成(人間科・2年)	01:04:20
148	高潮 瑛(人間科・2年)	01:04:21
162	大泉 真尋(人間科・4年)	01:04:29
255	高橋 銀河(経済・4年)	01:05:23
274	中西 良介(人間科・3年)	01:05:37



写真提供：月刊陸上競技

その他の選手情報は
こちら



駅伝チームの最新情報は
こちら



「箱根駅伝予選会を無事に通過でき嬉しい。反省点を活かして箱根駅伝本大会の臨みたい」と熱い思いを語ってくれた。全力で箱根駅伝予選会を駆け抜けた選手たちに称賛を送りたい。

いたのが、「コミュニケーション」だという。「昨年度はコミュニケーションが不足しており、集団走が機能せず、悔いの残る結果となった。今年は、下級生からも意見を取り入れるために4年生が率先してコミュニケーションを取るようにした」と話してくれた。合

木亮輔選手(人間科・4年)がペースメーカーとして、安定した走りを見せつけた。今回の立役者の一人だったと話す小林主将。佐々木選手への信頼は普段からも厚いようで、選手たちも安心して走れたであろう。また陸上競技部駅伝チーム内でトップ通過した小林主将は「日本人でトップを取りたかった。コンディションの調整を誤り、箱根駅伝予選会の1週間前にベストな状態となった。悔いは残るが結果は結果なので、今回の反省を活かして箱根駅伝本大会に臨みたい」と話す。それでも箱根駅伝予選会を全体13位、日本人内では3位での通過は、好記録であることは間違いなく。



写真提供：月刊陸上競技

箱根駅伝本大会 出場決定! 通算54回目

最後に「箱根駅伝予選会でのレース中の声援や、結果発表後の挨拶時のファンや大学関係者の多さに、改めて沢山の声に支えられていると実感した。応援していただける方たちのために、シートドレーパーを目標に箱根駅伝本大会に臨みたい」と熱く語ってくれた。悲願のシートドレーパーを目指す陸上競技部駅伝チームを応援したい。

最後に「箱根駅伝予選会でのレース中の声援や、結果発表後の挨拶時のファンや大学関係者の多さに、改めて沢山の声に支えられていると実感した。応援していただける方たちのために、シートドレーパーを目標に箱根駅伝本大会に臨みたい」と熱く語ってくれた。悲願のシートドレーパーを目指す陸上競技部駅伝チームを応援したい。

箱根駅伝予選会では、明確な声援と笑顔で道沿いの観客を巻き込み、華やかなエネルギーを送ってくれたチャアリーディング部。松村風花主将(中国語・3年)は「昨年度は、34秒の僅差で箱根駅伝本大会への出場を逃した陸上競技部駅伝チームの悔しい姿を目の当たりにした。今年は、より一層の応援を心掛けて、選手たちを後押ししたい。」

大後監督は「夏季強化合宿を振り返っても、質の高い練習が出来てきた。昨年度の課題であった『コミュニケーション』も4年生を中心にチームを作り上げてくれた」と話してくれた。最終日には、「距離走のメニュー」を選手たち自身に決めてもらい課題を出すことで、選手間での意思疎通の向上や、様々な局面でも対処できる力を育ませてもらった。

箱根駅伝予選会では、チャアリーディング部と連携の取れた素晴らしい演奏を披露してくれた管弦楽団。応援など外部での演奏をメインで担当する奥澤恵美さん(建築・3年)は「今年は、観客がたくさん詰めかけていて、箱根駅伝予選会が持つエネルギーを感じた。初めて応援に加える団員も多かったが、チャアリーディング部と共に一つの『チーム』



陸上競技部駅伝チーム
小林 篤貴 主将(人間科・4年)
出身校：日田工業(三重)



陸上競技部駅伝チーム
大後 栄治 監督

箱根駅伝本大会に向けて!



写真提供：月刊陸上競技

第100回 箱根駅伝 神大応援ポイント

① 八丁囃

1区 / 10区
往：8時55分
復：12時15分
京浜急行
八丁駅徒歩5分
「川崎警察署入口」
交差点付近



② 東神奈川駅東口

2区 / 9区
往：9時15分
復：12時00分
JR京浜東北線・横浜線
東神奈川駅徒歩6分
京浜急行京急
東神奈川駅徒歩4分
「神奈川二丁目」交差点付近
往路：スシロー前



③ 保土ヶ谷駅前

2区 / 9区
往：9時30分
復：11時40分
JR横須賀線
保土ヶ谷駅東口徒歩4分
「円福寺前」交差点付近



④ 矢沢合流地点

2区 / 9区
往：10時00分
復：10時50分
JR東海道本線・横須賀線
戸塚駅西口徒歩15分
矢沢交差点より
小田原方面へ
約200メートル



⑤ 遊行寺

3区 / 8区
往：10時25分
復：10時50分
JR東海道本線・小田急線
藤沢駅北口徒歩15分



⑥ 高砂歩道橋

3区 / 8区
往：10時30分
復：10時45分
JR東海道本線
辻堂駅南口徒歩15分
「高砂歩道橋」交差点付近



⑦ 湘南海岸公園付近

4区 / 7区
往：11時00分
復：10時15分
JR東海道本線平塚駅
南口徒歩20分
南口から海岸方面に直進し、
134号線沿い
高浜台歩道橋付近



⑧ 国府津駅前大磯寄り

4区 / 7区
往：11時40分
復：9時25分
JR東海道本線
国府津駅徒歩5分
駅から東京方面へ100m、
のんき亭前



⑨ 箱根湯本駅前付近

5区 / 6区
往：12時25分
復：8時50分
箱根登山鉄道
箱根湯本駅徒歩3分
駅から東京方面に約200m



⑩ 大平台

5区 / 6区
往：12時45分
復：8時35分
箱根登山鉄道
箱根大平台駅徒歩3分



箱根駅伝予選会では、チャアリーディング部と連携の取れた素晴らしい演奏を披露してくれた管弦楽団。応援など外部での演奏をメインで担当する奥澤恵美さん(建築・3年)は「今年は、観客がたくさん詰めかけていて、箱根駅伝予選会が持つエネルギーを感じた。初めて応援に加える団員も多かったが、チャアリーディング部と共に一つの『チーム』



奥澤 恵美 さん
(建築・3年)
出身校：藤沢(茨城)

管弦楽団

管弦楽団HPはこちら



私たちが 箱根駅伝を盛り上げます!

箱根駅伝予選会では、明確な声援と笑顔で道沿いの観客を巻き込み、華やかなエネルギーを送ってくれたチャアリーディング部。松村風花主将(中国語・3年)は「昨年度は、34秒の僅差で箱根駅伝本大会への出場を逃した陸上競技部駅伝チームの悔しい姿を目の当たりにした。今年は、より一層の応援を心掛けて、選手たちを後押ししたい。」



松村 風花 主将
(中国語・3年)
出身校：金沢総合(神奈川)

チャアリーディング部

チャアリーディング部HPはこちら



「箱根駅伝本大会では、シートドレーパーを獲得できるよう願っている。チャアリーディング部と共に、より息の合ったパフォーマンスと演奏を選手たちに届けたい」と話してくれており、本大会でも管弦楽団の素晴らしい音色が箱根路に鳴り響くこととなる。

「箱根駅伝予選会では、明確な声援と笑顔で道沿いの観客を巻き込み、華やかなエネルギーを送ってくれたチャアリーディング部。松村風花主将(中国語・3年)は「昨年度は、34秒の僅差で箱根駅伝本大会への出場を逃した陸上競技部駅伝チームの悔しい姿を目の当たりにした。今年は、より一層の応援を心掛けて、選手たちを後押ししたい。」

最後に「箱根駅伝本大会への出場を決めた陸上競技部駅伝チームからお礼の言葉を頂いたときもとても嬉しかった。本大会でも管弦楽団の皆さんと共に、選手たちの力強い走りに応援して、またいっしょに喜びを分かち合いたい。」

箱根駅伝を応援しに行こう!

わが部のおすすめスポット!

声と映像で視聴者に届ける!!

人前でも緊張せずに発表したい、滑舌が良くなり、ユーチューバーに興味がある、そんな方には放送研究会KBASをおすすめしたい。

同会は、朗読やナレーションをメインとするアナウンス課、ボイスドラマなどを披露する台詞課、ラジオ配信で校内情報を発信するラジオ課、映像制作を手掛ける技術課の4課に分かれて幅広く活動している。



放送研究会KBAS HPはこちら



佐藤 拓斗 部長(経済・3年)

「メンバーそれぞれが希望する課に所属して活動している。ラジオ課は話が好きな方が多く、和気あいあいとした雰囲気。一方、技術課は職人のような真面目さでプロフェッショナルな映像を作ってくれている」と話してくれた。主な活動として夏季・

放送研究会KBAS

放送研究会KBAS HPはこちら



冬季の年2回、他大学の学生を招待して制作作品の公演をする番組発表会がある。4課が専門分野を活かして1つの作品を制作する過程では、企画から撮影、編集と多岐に渡るため時間・労力共に掛かるが、完成した時はこの上ない達成感を味わえるそうだ。

最後に「良い作品を手掛けるにはコミュニケーションがとても重要。1つの作品に対してメンバーの気持ちや同じ方向に向かっていくことが大事」と話してくれた。メンバー間の協力が求められる作品制作では、息の合った連携と足並みが揃うことの大切なのだろう。番組発表会やYouTubeでのラジオ放送などマルチに活動する放送研究会KBASに今後も注目したい。

コーヒーを通じて笑顔を!

嗜好品として日常生活にも身近な飲み物の「コーヒー」。神奈川県神奈川大学には、そのコーヒーを愛する同好会が存在する。KU GOOD COFFEE CLUB(以下、KUGCC)は「楽しむコーヒー」をモットーに、2019年に発足された。



KU GOOD COFFEE CLUB HPはこちら



酒井 夢宙 部長(経済・2年)
出身校: 安部学院(東京)

酒井夢宙部長(経済・2年)は「初心者からベテランの人まで様々なメンバーが所属しているが、誰でも楽しめる活動」を心掛けています。現在140名ほどのメンバーが在籍しており、ハンドドリッパ体験やグループでのカフェ巡りを行っているとのこと。長期の休みには、カフェを貸し切りラテアートの練習をするなど活動の幅は広い。また神大フェスタではチャリティー

KU GOOD COFFEE CLUB

KU GOOD COFFEE CLUB HPはこちら



活動も実施したようで、「NPO法人せいぼ」から依頼を受け、売上の100%をマラウイの子どもの給食費として寄付したそうだ。最後に「コーヒーは奥が深く、とことん探求できる。日々の活動を通じて、大学生生活ワンランク上の楽しいものになってくれるれば嬉しい」と語ってくれた。入会は、いつでも歓迎とのことなので、KUGCCのInstagramまたはXのアカウントから気軽に連絡をしてみよう。一度活動に参加して、コーヒーを通じて生まれるコミュニケーションを体験してみたいかどうだろうか。

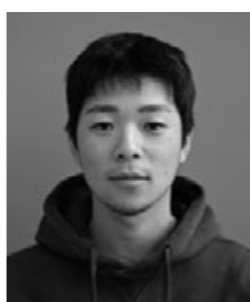
来季こそBブロック昇格へ!!

8月29日(火)〜31日(木)にロックヒルゴルフクラブで開催された2023年度秋季対抗戦男子Cブロックに出場したゴルフ部。2勝1敗でCブロック3位となり、2位以上に与えられるBブロック昇格への入替戦には一歩届かなかったが、最後まで健闘を見せてくれた。

渡部 太一 主将(国際経営・3年)は「目標としていたBブロック昇格を果たせず、悔しい思いをした。ただ3位決定戦では、最終ホールに逆転勝ちを取った勝利が糧になる」と話した。



ゴルフ部 HPはこちら



渡部 太一 主将(国際経営・3年)
出身校: 鶴岡東(山形)

「春の対抗戦に向けて、選手たちの記録や練習のモチベーションを良い状態で保てるのが鍵になる」と話した。来年の春季対抗戦に向けて、選手たちの記録や練習のモチベーションを良い状態で保てるのが鍵になる」と話した。

ゴルフ部

ゴルフ部 HPはこちら



なってくる。ラウンド回りの練習でもスコアと順位付けを行い、目標を持って取り組みたい」と話し、プレーを数値化することで選手の意識向上を図ると教えてくれた。

最後に「ゴルフは紳士のスポーツと呼ばれ、歴史もある。神奈川県神奈川大学ゴルフ部も挨拶や相手へのリスペクトを大事にする伝統を忘れずに、プレーを通してゴルフの素晴らしさを届けていきたい」と話してくれた。悲願のBブロック昇格に向けて意気込みを見せてくれたゴルフ部の躍進と紳士なプレーにも注目したい。

チーム力で日本一を目指す!!

4月22日(土)〜10月29日(日)にかけて開催された第37回関東大学女子サッカーリーグ戦(以下、リーグ戦)でベスト8となり、32回全日本大学女子サッカー選手権大会(以下、インカレ)の出場権を獲得した女子サッカー部。中岡理子選手(国際経営・3年)は「リーグ戦前期では、順調に勝点を積み上げることができたが、後期に入ると勝ちきれない試合が多く苦闘の時期を過ごした。最終節が終了するまで、インカレへの出場が実現するかわからない非常に厳しい状況でインカレへの出場権を獲得したことから、喜びと同時に安堵の気持ちも大きかったという。



女子サッカー部 HPはこちら



中岡 理子 選手(国際経営・3年)
出身校: 常盤木学園(宮城)

「インカレはトーナメント形式の為、1点の重みが試合を左右する。リーグ戦を通して失点が多く、得点が少ないだったので、練習で改善したい」と話した。現在は、パス練習を中心に行い「止める・蹴る」の連続した動作の速度強化をしているようだ。



今後の目標については「インカレで優勝を掲げている。チームは学年を越えて仲がよく、上下関係も堅苦しくないので、まともにあるチームになっている。出場選手だけではなく、チーム全体で日本一を目指したい」と熱く語ってくれた。前線から積極的プレスをかけるプレススタイルと抜群のチームワークを持つ女子サッカー部。ぜひ、彼女たちの今後の活躍に注目してほしい。

女子サッカー部

女子サッカー部 HPはこちら



神大スポーツをWEBで見る!

過去の神大スポーツやWEB版のみの活動記録をご覧いただけます。右のQRコードで今すぐチェック!



【神大スポーツ】掲載記事および取材学生の募集

神大スポーツで記事を取り上げ欲しい、私たちの課外活動を紹介したいなど個人・団体問わず募集しております。また神大スポーツでは、企画立案・取材・記事制作に興味のある取材学生を募集しております。ご希望の方は、右のQRコードからご応募ください。

※ご応募いただいた方から、ご協力いただきたい方はこちらから連絡を差し上げます。



課外活動団体へのご支援をお考えの皆様へ

神大スポーツ・文化振興賛助金募金

左のQRコードからアクセス



※キャンパス内のおすすめスポットについては、神奈川大学の在校生及び関係者の方のみの立ち入りになります。一部条件を満たせば外部の方でもご利用できますので、一度本学までお問い合わせください。

神大フェスタ実行委員会
委員長：加藤 優剛(経済・3年)
出身校：鹿屋(鹿児島)

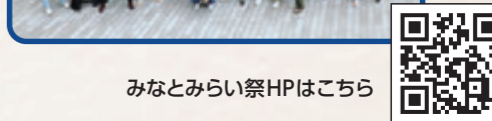
みなとみらい祭実行委員会
委員長：三宅 涼太(国際経営・3年)
出身校：横浜市立東(神奈川)

神大フェスタ×みなとみらい祭

今年も神奈川大学の秋を盛り上げた2つの大学祭が大盛況のうちに幕を閉じた。11月4日(土)・5日(日)に横浜キャンパスで開催された「神大フェスタ」と10月28日(土)・29日(日)にみなとみらいキャンパスで開催された「みなとみらい祭」だ。コロナ禍以来の全面的に規制のない両大学祭について、神大フェスタ実行委員会の加藤優剛委員長(経済・3年)とみなとみらい祭実行委員会の三宅涼太委員長(国際経営・3年)の両名にそれぞれインタビューをした。



神大フェスタHPはこちら



みなとみらい祭HPはこちら

Q. 開催前日の準備状況は?

神：昨年度は祝日が前々日に重なり、準備期間が2日間と余裕があった。今年度は規模も大きい中、1日で完成させるために綿密なスケジュールを組んだ。その甲斐もあり順調に終えることができた。
み：事前に大学側と調整し、物品の移動を2日前に行っていたこともあり計画的に動くことができた。開催前日は、各局の代表がしっかり指示出しを行っていたので、安心して総指揮ができた。

Q. 反省点

神：参加いただいた各団体の方とのやりとりで反省点があった。参加団体数も多く、コミュニケーションを密に取れず、混乱する場面もあった。次年度に向けてルールの明確化が大事と感じた。
み：初のステージ企画ということもあり、スケジュールをかなり詰めてしまったことが反省点であった。企画が替わる際の開催時間も短いため、業者の方を急がす形になってしまった為、次年度は余裕を持ったスケジュールを検討したい。

Q. 大学祭の成功の秘訣は?

神：徹底した「準備」と「想像力」だと思う。実行委員会だけでなく、関係各所への連携が非常に重要なため、色んなことを想定しながら実行に移すことで成功につながると思う。
み：「逆算した行動」が重要だと思う。いつまで何かどのような状態でないかを常に逆算しながら行動することで、慌てずにタスクをこなしていけると思う。

Q. 当日の雰囲気について

神：周辺地域の子どもからお年寄りの方まで、沢山の方にお越しいただけた。また神大生に「神大フェスタ」の認知も上がってきたこともあり、多くの神大生にも楽しんでいただけたと思う。
み：昨年度よりも大幅に来場者の方が増えた。特に神大生や大学職員の方にお越しいただけだったので、活気のある大学祭となった。また出展いただいた企業の方にもご満足いただけたと思う。

Q. 大学祭を通じて得られることは?

神：一つの大きいものを「作る(創る)」ことへの楽しさと達成感、人生の財産になると思う。また多くの人と関わることでコミュニケーション力や、企画力など社会人でも役に立つと考える。
み：大学生生活は自由度高いが、何もしないとただ時間が過ぎていく。何か大いことに打ち込めるものとして大学祭はあると思う。考えて動く力や俯瞰して見る力が養えると思う。

Q. 委員長が大学祭当日に印象に残ったことは?

神：考案した企画に来場者も多く、自分たちの企画に自信を持つことができた。また昨年度よりもステージ企画についても多くの方にお越しいただき盛り上がるイベントとなった。
み：アリーナにみなとみらい祭では初となる「ステージ」を組んだが、来場いただけるか不安だった。ただ当日は、配布した入場整理券がすぐなくなるほどの想定以上の来場者となり、大変嬉しかった。

Q. お互いの大学祭について

神：今年で3回目とは思えない、完成度と規模であった。また、スタッフの方たちが笑顔で楽しそうに対応している姿も印象的で、目的意識の共有がしっかりできていると感じた。
み：近隣住民の方の多さに、改めて地域に愛されていると感じた。25回やってきたナレッジとノウハウを最大限に活かしているイベントになっていると感じた。

Q. テーマ通りの大学祭となったか?

神：「Awesome! ~ココロゴカセ~」というテーマでアメリカンカンパブを意識したが、活気と高揚感のある神大フェスタになったと思う。来場者のアンケートでも満足度が高かったため確信している。
み：「An Core(アーンコアー) ~夢のもう一歩~」のテーマの通り、夢のような空間になったと思う。初挑戦も多かった今年のみなとみらい祭が、未来にも繋がっていくことを確信した。

Q. 近隣地域と関わってみて

神：普段から六角橋商店街の方々と関わりも多いが、神大フェスタを通じて改めて近隣の方の大切さを知った。地域と連携せずに神大フェスタは成り立たないと感じた。
み：都市型キャンパスということもあり多くの企業の方に協力いただいた。その中でも、企業の方に提案内容を全て任せるのではなく、自分たちからみなとみらい祭にかける思いを伝えることが大事と感じた。

Q. 後輩たちへのメッセージ

神：今後も良い伝統を引き継いでいながら、より精度の高い神大フェスタを目指して欲しい。優秀な後輩たちが揃っているため、来年度の仕上がりを楽しみにしている。
み：今年度も重要なポジションを後輩たちに任せていたので、安心感もある。規模もどんどん多くなり大変だとは思いますが、現状の結果に満足せず楽しんで活動してほしい。

委員長に聞いてみた! 一問一答!

Q&A 神：神大フェスタ み：みなとみらい祭

みなさまご来場いただきましてありがとうございました! 来年度も楽しみにお待ちしております!

神大生レポート特集!!

神奈川大学の学生記者が独自の切り口で取材! 今回は桑島 暖さん(日本文化・2年)、藤原 陽菜さん(日本文化・2年)、徳永 広準さん(日本文化・2年)、吉原 大翔さん(自治行政・2年)が取材しました。

バドミントン部

バドミントン部 HPはこちら



1. コーディネートのテーマ

友達と図書館で真面目に勉強コーデ サブテーマ「愛」

2. 服のブランド

アウターは「AS KNOW AS」お母さんのショッピングで運命の出会い靴は「NIKE」の Air Max 友達からのプレゼントでもらったもの。

3. チャームポイント

靴です! 部活の友達から部活前にサプライズで誕生日プレゼントにこの靴をくれました! 白に秋っぽさのある色合いがチャームポイント、そしてバドミントン部の絆も感じられる素敵な靴。

ワタシの私服紹介

河村実衣選手(日本文化・2年) 出身校：青森山田(青森)



バドミントン部の私服紹介

1. コーディネートのテーマ

部活の同期とふらっと遊びに行くときのコーディネート。

2. 服のブランド

トップスのハーフジッパーは「make a ray!」ボトムスのデニムパンツは「ユニクロ」TikTokを視聴していた際、偶然にもこのデニムパンツを紹介する動画が流れてきて、シルエットに惹かれて購入。

3. チャームポイント

シックで落ち着いた大人っぽい大学生を表現。またターゲットな印象のコーディネートとは対照的な金髪がポイントで、髪までがファッションの一部であることを感じさせるコーディネート。

ワタシの私服紹介

安間亮太選手(人間科・1年) 出身校：山梨学院(山梨)



4. 部活動紹介

【人数】●女：7人 ●男：13人 ●マネージャー：1人 【活動】●週五日活動 ●女：月・火 ウェイトトレーニング 火・木・土 体育館 ●男：火・土 体育館 ●練習メニューは、部員で意見を出し合いながら作成している。そのため、結束力のあるチームになっている。男女とも仲がよく、楽しそうな雰囲気のある部活。

学生記者

神大スポーツ7月号に続き、学生記者を担当してくれた桑島さんと新しく学生記者に名乗りを上げてくれた藤原さんは「ファッション」をテーマに、バドミントン部の河村選手と安間選手の私服へのこだわりを取材してくれた。

桑島さんは「取材は慣れてきたが、苦手な記事もはっきり書いていけるように頑張りたい」、藤原さんは「人のお話を聞くのが好きなので楽しい取材となった」と話してくれた。

今後取材してみたい企画について、桑島さんは「文化団体にも焦点を合わせた企画を検討して取材したい」、藤原さんは「国内外で活躍する優秀選手の密着取材をしたい」と話してくれ、どちらも興味深い企画だと感じた。今後の活躍にも期待したい。

左から 桑島 暖さん(日本文化・2年) 藤原 陽菜さん(日本文化・2年)



佐藤 太陽 主将(人間科・3年) 出身校：浜松商業(静岡)

硬式野球部

新チームが始まったばかりの硬式野球部の佐藤太陽主将(人間科・3年)を取材してきました。去年は神奈川大学野球秋季リーグ戦で5位の成績を残しました。新チームでの初めての大会は、神奈川大学野球春季リーグが4月の頭から5月末まで開催されます。「克己心」をスローガンとして、弱点であるバッテリーの力を

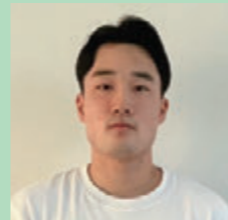
高めるために頭を使った投球をし、だれずに細かいところまでしっかりとやり遂げる力をつけて優勝を目指して頑張ります!

佐藤主将が試合時によく聞く歌を聞いてみました。バスでの移動時はリラックスができる曲を聞き、試合30分前~直前はアップテンポな曲を聞いて心拍数をあげて試合に挑むそうです。特に決まった歌手の歌を聴くことは少なく、ヒット

硬式野球部 HPはこちら



ワタシの好きな音楽



山本 楓太 選手(国際経営・4年) 出身校：保善(東京)

男子バスケットボール部

ジャーアーティストの曲を聴くそうですが、試合前になるとVaundyの「怪獣の花唄」や、ONE OK ROCKの「We are」などの気分が上がるような曲を試合に向かう道中などで聴き、テンションを上げるようにしているそうです。

今回インタビューを受けていただいたのは男子バスケットボール部に所属している山本楓太選手(国際経営・4年)です。山本選手は身長191cmとかなりの長身の持ち主です。そんな山本選手が所属している男子バスケットボール部は、4年生8人、3年生15人、2年生13人、1年生9人の計45人で活動している部活です。

男子バスケットボール部の中には、山本選手より長身の選手も所属しており、チームの最高身長は197cmにもなるそうです。今シーズン、男子バスケットボール部は日本一を目標として掲げて活動しているそうです。さて、そんな山本選手が普段の日常の中で聞いている曲は、様々なジャンルの曲を聴くそうですが、中でも King Gnu の「飛行艇」をよく聴くそうです。他にも様々なメ

男子バスケットボール部 HPはこちら



学生記者

神大スポーツの新しい学生記者として名乗りを上げてくれた徳永さんと吉原さんは「音楽」をテーマに、男子バスケットボール部の山本選手と硬式野球部の佐藤主将の各々に、練習や試合前によく聴く音楽について取材してくれた。

徳永さんは「普段の大学生生活では、関わる機会がなかった神大生に話を聞いて面白」、吉原さんは「取材は緊張感もあるが、普段聞くことがない話を聞ける楽しさがある」と話してくれた。

今後、神大スポーツを通してみたいことについて、徳永さんは「公認・準公認団体以外のサークルにも取材してみたい」、吉原さんは「取材以外にも写真撮影もしたい」と想いを語ってくれた。今後の活躍も楽しみだ。

左から 徳永 広準さん(日本文化・2年) 出身校：須長(長野) 吉原 大翔さん(自治行政・2年) 出身校：横浜創学館(神奈川)

